

Q8 災害廃棄物（可燃物）を焼却すると放射能濃度が高くなるのでは？

A8

- 放射性セシウムを含む可燃性の災害廃棄物をそのまま焼却すると、放射性セシウムは灰に濃縮されることから、放射性物質の量は変わらないものの、濃度は相対的に高くなり（濃縮され）ます。
- しかし、災害廃棄物を受け入れる市町村の焼却施設では、その市町村内の家庭から出される一般ごみに混ぜて焼却しますので、焼却灰（※主灰、飛灰）における放射能濃度は受入れ前とほとんど変わりません。
- 焼却の際、一般ごみと混ぜ合わせる割合（混焼率）は、焼却施設の処理能力などを勘案し、概ね7～15%としています。
- 焼却灰については、毎日、放射能濃度を測定し、通常通り埋立処分ができる目安値8,000ベクレル/kg以下であることを確認した上で、適正に埋立処分します。
- 万が一、この値を超えた場合には、岩手県との基本協定に基づき同県へ返却することとしていますが、受入期間中に行った測定調査では、全てこの値を十分下回る結果でした。

野田村の可燃物処理における測定調査結果  
（平成24年9月～平成25年3月）

〔単位：ベクレル/kg〕

自治体名	焼却灰	セシウム134	セシウム137	目安値
秋田市	飛灰固化物	14 (7.6)	31 (9.2)	8,000
横手市	主灰	不検出 (9.6)	不検出 (8.7)	
	飛灰固化物	不検出 (9.5)	21 (9.5)	
由利本荘市	主灰	不検出 (8.1)	不検出 (8.6)	
	飛灰固化物	不検出 (5.4)	14 (5.9)	
湯沢雄勝 広域市町 村圏組合	主灰	不検出 (8.1)	不検出 (8.1)	
	飛灰固化物	不検出 (7.4)	37 (8.7)	

※数値は調査期間における最大値（括弧内は検出下限値の最大値）

※秋田市の処理施設は熔融炉のため主灰は排出されない

宮古市の可燃物処理における測定調査結果  
（平成24年4月～平成25年7月）

〔単位：ベクレル/kg〕

自治体名	焼却灰	セシウム134	セシウム137	目安値
大仙美郷環境 事業組合	主灰	不検出 (9.6)	不検出 (9.8)	8,000
	飛灰固化物	32 (8.6)	39 (9.7)	

※数値は調査期間における最大値（括弧内は検出下限値の最大値）